※令和４年度以降入学生用

学校番号	1003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「　新　高校の数学Ｂ」（数研出版）						
副教材等	「　ポイントノート　数学Ｂ」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・筆記用具、授業用のノートを必ず用意してください。
・「問題を解く→答え合わせをする→やり直す」過程を自ら実践できる力をつけましょう。
　ただ問題を解くことに満足せず、やり直しまで丁寧にやり遂げましょう。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。
・ノートや問題集、宿題などの提出物は必ず提出するようにしましょう。
・分からないときは先生、周りの生徒に積極的に質問し、最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

数列、統計的な推測、数学と社会生活について
(1) 基礎的な知識や技能を習得する。
(2) 事象を数学的に考察する能力を培う。
(3) 数学のよさを認識し、それらを活用しようとする態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列、統計的な推測についての基本的な原理・法則を理解し、数学的に表現・処理したりする技能を身に着けるようにする。	事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数列、統計的な推測の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章	第１節　数列とその和	a:等差数列や等比数列の一般項や和を求めることができる。Σの計算ができる。階差数列の一般項を求めることができる。 b:等差数列や等比数列の変化の規則性に着目し、それらの一般項や第 n 項までの和を求める式を導くことができる。Σの性質を基にして、Σの性質を考察することができる。Σを用いることで数列の和が簡潔に表すことができることを理解している。 c:具体的な事象の数列を等差数列や等比数列の考えを利用しようとする。Σや階差数列に関心をもち、問題解決に活用しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
		第２節　漸化式と数学的帰納法	a:簡単な漸化式で表された数列の一般項や事象の変化を漸化式で表すことができる。数学的帰納法の証明の仕組みが理解できる。 b:漸化式で表された式が既習の数列の性質と関連付けて考えることができる。数学的帰納法をもちいて命題を証明することができる。 c:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、漸化式や数学的帰納法の考えを利用しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※令和４年度以降入学生用

2学期	第2章	第１節　確率変数と確率分布	a:具体的な事例を通して、確率変数と確率分布の意味を理解し、確率分布の表が作成できる。二項分布において、確率分布の表が作成できる。正規分布の形や性質を理解することができる。正規分布表を用いて確率を求めることができる。 b:具体的な事例を通して、確率変数の平均、分散、標準偏差を求めることができる。二項分布の平均、分散、標準偏差を求めることができる。与えられた確率変数から標準正規分布に従う確率変数に変えることができることを理解し、その確率について求めることができる。 c:確率変数や確率分布の性質について関心をもち、確率変数の特徴や確率分布の様子を考えようとしている。正規分布について関心をもち、日常の事象や社会の事象などを正規分布の考えを利用しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
		第２節　統計的な推測	a:標本調査をする意味を理解し、性質がわかっている母集団から標本の性質を具体的な値で求めることができる。 b:標本調査を目的に応じて設計し、母集団の特徴や傾向を推測することができる。具体的な事象の母集団において、信頼区間をもちいて母平均を求めることができる。 c:標本調査の性質に関心をもち、統計的な推測の意味やよさを理解し、日常的な事象や社会の事象などの考察に活用しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※令和４年度以降入学生用

3 学 期	第 3 章	1 ごみの量の推定 2 自転車シェアリング 3 電気料金と省エネルギー 4 平均気温と地球温暖化 5 標高と気温の関係 6 自転車が止まるまでの距離	a:社会生活などの問題が、数学を活用して解決することができる。 b:社会生活などの問題が、どのようにすれば数学的に処理できるかを考察することができる。 c:日常の事象や社会の事象について数学的な考えをもちいて考察しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度